



金沢女子短期大学 情報処理科

金沢女子短期大学は昭和21年、名勝兼六園の横に金沢女子専門学園として発足、昭和26年に金沢女子短期大学となった。昭和43年に文科と家政科に専攻分離し、昭和50年、全国で初の短大の情報処理科を設置した。キャンパスは昭和56年に金沢市末町に移転し、今日に至っている。定員は現在、文学科200名、家政学科200名、情報処理科150名である。

情報処理科では、現代の社会で求められる情報処理の知識と技能のうち、特に経営活動の場で重要視されている4つの柱、すなわちコンピュータの利用技術、経営管理と簿記会計、数学的な技法、秘書実務の技能を着実な積み上げ学習によって体得することを通じ、知性をみがき、人間性を高めることを目的としている。

情報処理科は現在、情報処理と情報秘書の2つのコースに分れており、前者はコンピュータの利用技術と数学的な技法を、後者は経営管理や簿記会計と秘書実務の技能を重点的に教育している。

コンピュータの利用技術の内容としては、COBOL言語を中心にFORTRAN言語やアセンブラ言語等によるプログラミングの技術を取得させ、一般事務、簿記会計、OR、数値解析等への利用をめざしている。これら

の教育を実現するために、コーディング用紙から直接コンピュータで扱える記憶媒体にするための手書きOCR装置、中型機(FACOM S340-R)から端末装置として使える28台のパーソナル・コンピュータ(F9450II)を設置し、学生が空き時間に自由にこれらの装置を利用できるようにオープン使用方式を採用して運営管理を行っている。

昭和59年度からは全学生に情報処理教育を行なうために、新たにパーソナル・コンピュータ(PC9801F)29台を設置し、BASIC言語、ワードプロセッサ、簡易言語等の教育を開始している。そして、一般事務、栄養計算、テキストスタイル・デザイン、コンピュータ・グラフィックス等への活用をめざしている。

情報処理科の教職員は〔教授〕木戸睦彦、中島孝、寺井俊二〔助教授〕吉田寛治、南俊博、古沢治司、小村進、大藪多可志〔講師〕山口幸三、山下浩〔助手〕福田一美、北谷一美〔実習助手〕江尻智恵子、草島かをる、江淵恵、松井美仁子、井沢直美で、各人の専門は数学、情報処理、電子工学、秘書、会計学など多岐にわたっている。研究テーマも各人各様で、自由な雰囲気できりくんでいる。(南俊博)

姫路工業大学—大学とORグループ

姫路工業大学は、昭和19年創立の兵庫県立高等工業学校を母体としたわが国で唯一の公立工科系単科大学であり、かつては神戸から広島をあいだに存立する唯一の工学部でもあった。1学年300名という学生数の少なさに加え、PRのうまい教官が少なすぎたためか、その実力と内容に比べて専門家以外にはあまり名が知られていない大学でもある。しかしながら、伝統的な小教精鋭と実力主義の気風は、たとえ就職が内定していても卒業に備える実力がそなわっていないと判断された学生に対しては(本人の将来のためにと)内定企業への了解のもとに、もう1年間勉強させるといった、大学である以上自明といえる厳格さを実行し、結果として多くの有能な人材を

育成し、プロのあいだに「姫路工大で育った人なら安心して」との高い評価を与えてきた。小規模で地味ながらも、大学院修士課程と博士課程を擁する活動的の大学が姫路工大といえよう。

この小規模で地味な大学にも最近変革を求める動きがある。情報化社会にマッチした個性あふれる研究体制づくりとそのPR、兵庫県西部(西播)に建設されようとしている西播テクノポリスの中核研究機関となるための機能と組織の充実、地元産業活性化のためへの研究面と人材面からの(県立大学としての)サービス等の要求がそれである。学内においてもこの動きを冷静に受け止め角戸学長を中心に個性あふれ地域に貢献できる大学へと